

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2672700040
法人名	社会福祉法人 真愛の家
事業所名	グループホーム真愛の家 恵の里
所在地	京都府舞鶴市字上安小字中ノ脇1697-36 (電話) 0773-78-1221

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年11月21日	評価確定日	平成21年1月5日

【情報提供票より】(平成20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 8人, 非常勤 3 人, 常勤換算 9.6 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り平屋建て	
	1 建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,000 円	その他の経費(月額)	33,500 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,150 円	

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	3 名	要支援2			
年齢	平均 85.33 歳	最低	78 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	舞鶴赤十字病院 荒木クリニック 古森歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

舞鶴市では、早くから高齢者福祉に取り組まれている大型法人のグループホームで、広い敷地の中に立地し、木のぬくもりを感じる外観です。ホーム内は天井が高く、壁一面がガラス張りで自然の光が差し込む中で、木々の色付きや畑の作物から季節を感じながら、利用者は得意な事や今までの趣味を継続して行いながら、毎日を生き生きと過ごされています。ホームでは排泄面でのケアを重視しており、職員が力を合わせて取り組んだ結果、自立された方が多くいます。法人からの明確なサポートがあり、厚い職員配置で個別ケアが徹底され、研修受講にも積極的で、職員のケア技術の向上がなされています。「ホームが一番で、自分が住みたいホーム」を念頭に日々チームケアに取り組まれた結果、家族からも喜びの声が聞かれています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で話し合った改善点については、できることから取り組んでいる最中です。記録委員を配置して、介護計画と日誌が連動できるようなフォーマットの見直しを進めているところです。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	今回の自己評価表は、会議で評価の話をして、管理者がまとめたものを職員にみせて意見を聞きました。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	家族、老人会会長、民生委員、行政担当者、法人の上司、ホーム管理者、職員をメンバーとして2ヶ月に1度開催しています。ホームの理解を得られるような話し合いや、地域の情報、介護に関すること等、様々な内容で開催し交流の場となっています。勉強会を行うこともあり、有意義な機会となっています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	ホームの玄関に意見箱を設置しています。家族の訪問の際には話を直接聞き、要望や苦情には、すぐに対応するように心がけ、会議等で話し合い、前向きに解決に取り組んでいます。苦情窓口は書類にも明記し、入居時に説明しています。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)

外出の際には必ず挨拶をして、顔なじみになるように努力しています。近所の方から花をいただいたり、ホームに花を生けて来てくれる方もいます。買い物へ行く商店でも顔見知りになっています。併設の特養には地域交流ルームがあり、行事などの際に、地域の方々と触れ合う機会が多くあり、小学生や幼稚園児が来て、歌をうたったり、一緒に作業したりと交流をしています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の基本方針を具体化した4つの理念を作り、玄関に掲げている。その中には、地域で暮らすことの意味を踏まえた理念もある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティングで理念を唱和している。日常でも管理者が理念についての話をする場面を多く持ち、職員間の共有を図っている。会議や新人教育の場でも話している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	外出の際には必ず挨拶をして、顔なじみになるように努力している。近所の方から花をいただいたり、ホームに花を生けに来てくれる方もいる。買い物へ行く商店でも顔見知りになっている。併設の特養には地域交流ルームがあり、行事などの際に、地域の方々と触れ合う機会がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、会議で評価の話をし、管理者がまとめたものを職員にみせて意見を聞いた。前回の外部評価で話し合った改善点については、できることから取り組んでいる最中である。例えば、記録委員を決めて、フォーマットの見直しを進めているところである。	○	自己評価は日々の振り返りになり、自ら改善点を把握することにつながるので、全員で取り組むことが期待される。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、老人会会長、民生委員、行政担当者、法人の上司ホーム管理者、職員をメンバーとして2ヶ月に1度開催している。ホームの理解を得られるような話し合いや、地域の情報、介護に関すること等、様々な内容で開催し交流の場となっている。勉強会を行うこともあり、有意義な機会となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市とは相談しアドバイスをもらえる関係であり、頻繁に行き来している。研修の相談もでき、管理者が高齢者虐待防止委員ということもあり、話し合う機会も多い。介護相談員も受け入れている。担当者が運営推進会議にも参加しており、密な連携が図れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日々の暮らしぶりについては、家族の来訪時に直接伝えたり、写真を載せた個人ごとのお便りを毎月送付するなど、個々に合わせて分かりやすく報告をしている。また、電話連絡も頻繁に行っており、季刊誌「日向ぼっこ」を発行し、職員紹介をしたり、個人ごとのアルバムを作成して、家族に喜ばれている。金銭については、毎月領収書を付けて収支報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関に意見箱を設置している。家族の訪問の際には話を直接聞き、要望や苦情には、すぐに対応するように心がけている。会議等で話し合い、前向きに解決に取り組んでいる。苦情窓口は書類にも明記し、入居時に説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入職時は先輩職員について、利用者を理解しながら、日々のケアを覚えている。職員の入れ替わり時には、重複期間を作り、正確に引継ぎができるようにしている。法人内の異動はやむを得ないが、離職を防ぐ取り組みとしては、管理者が話を聞き、一緒に考えながら解決できるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修には順次参加できる体制を作っている。研修受講後は、報告書を提出し、資料と共に回覧している。また、会議の場で伝達研修も行っている。法人内の研修も数多くあり、働きながら学ぶ機会が多くある。ホーム独自でも勉強会を開催し、ケアの向上に取り組んでいる。法人では、常勤、非常勤にかかわらず、積極的な研修受講を勧めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加し、研修を受講したり、意見や情報交換をしたり、事業所の職員同士の交換研修をしている。法人内でも交換研修があり、他の介護サービスの体験もできる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム側から家庭を訪問して、生活場面での面接で、暮らしぶりや習慣を理解し、継続した生活ができるように配慮している。今後は、体験的にホームに来ていただき、馴染みながらのサービス利用開始につなげていきたいと考えている。入居時には、家族と頻りに連絡を取り、協力をいただきながら、ケアにあたっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々を楽しみながら過ごすことを心がけている。利用者の得意なことやできることを把握し、共に生活する中で、教えていただく場面を作っている。皆で集まって昔話を聞く場を作り、思いを共感している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や、行動から思いを把握するようにしている。困難な方には表情から汲み取ったり、家族から聞いたたりしているが、職員間で共有を図るための記録が充分ではない。今後は、センター方式を取り入れたいと考えている。	○	職員間で情報を共有する為にも、センター方式に取り組まれることが期待される。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意見、要望を聞き、カンファレンスで話し合った内容を基にして、長期目標、短期目標を盛り込んだ介護計画を作成しているが、アセスメントが充分ではない。	○	充分なアセスメントをし、ニーズを抽出して介護計画を作成されることが求められる。その際には、アセスメント記録を残されることが期待される。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、カンファレンスで計画の評価を行い、医療面に考慮しながら、6ヶ月に1度、介護計画を見直している。日々の記録が計画と連動されておらず、今後の課題となっている。	○	介護計画の見直しの前には、必ずモニタリングをすることが求められる。モニタリングしやすいように、計画と記録が連動できるようなフォーマットを考案されることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院介助や美容院の送迎をしたり、買い物等、個別での外出をしている。昔住んでいた場所を訪れたり、希望に応じて柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医を継続されている方もおられ、往診に来ていただける。ホームの提携医からは、月に2回往診があるが、毎週診ていただいている方もいる。医師とは24時間連絡可能で、緊急時には夜間でも駆けつけてくれる。ホームには看護師も配置されていて、法人の看護師からの協力もあり、医療面では安心な体制が整っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の思いを大切に、医師を交えて話し合いを重ねながら方針を共有し、家族、ホームが協力してターミナルケアに取り組んだ経緯がある。他の家族からも、ホームでの看取りについて口頭で同意をいただいております。今後もターミナルケアには取り組む予定である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の際の声かけには十分に注意しており、プライバシーを損ねるような不適切な場面が見られた場合は、その都度職員同士で注意し合っている。個人情報等の記録物は、事務所の書庫に保管している。情報の漏洩がないように、職員からは入職時に同意書を取り、個人情報の研修も受講している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな日課はあるが、一人ひとりの希望に合った生活を支援している。例えば、起床時間や就寝時間は自由であり、個々のペースを大切にするように心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、利用者の希望を聞きながら考えている。調理や食事、後片付けまで利用者と一緒にしている。家庭菜園で採れた野菜や、季節の食材が食卓をにぎわし、利用者と職員は、同じ物を食べながら楽しい食事時間を過ごしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	昼食後からが入浴時間で、毎日でも入浴することができる。拒否のある方は声かけのタイミングを工夫し、気持ちよく入浴していただいている。体調のすぐれない方には清拭で対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事等では、一人ひとりの役割分担があり、力を発揮していただいている。得意なことができる場面を意識的に作り、ピアノ演奏に合わせて歌をうたったり、個人ごとに、編み物や絵を描く等の以前からの趣味の継続も支援している。法人の特養やデイサービスでの行事にも多く参加している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日、散歩に出かけている。身体機能の低下で難しくなってきた方もいるが、できるだけ外出できるように支援している。ドライブに行ったりして気分転換を図ることもある。敷地が広く玄関を出て法人内を歩くだけでも外出の気分が味わえる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自由な暮らしの支援のため、日中玄関、庭への出入り口共に施錠されていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回、消防署との協力で法人と合同で避難訓練を行い、消火器の使用方法や避難経路の確認をしている。ホーム独自でも夜間を想定して避難訓練している。防火管理者が主になって、緊急時の研修も行っている。法人には備蓄も準備されている。地域には、避難訓練の話はしているが、協力を得られるような働きかけはこれからである。	○	運営推進会議を通じて、地域からの協力を得られるように働きかけられることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量とも毎回把握して記録に残している。法人の栄養士から、献立や調理方法のアドバイスをもらっている。嚥下状態や体調にに合わせて、キザミやお粥にしたり、トロミをつけたり、すり鉢で搗ったり、消化のよいものを作ったりと様々な工夫をして食事提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁は一面ガラスで、自然の光が差し込み、木々の色付きや、畑の栽培物で季節感を感じることができる。ホーム内の共有部分には、季節の花が生けてあり、食卓やソファのコーナー、入り口の椅子等それぞれの空間が整えられており、お気に入りの場所で過ごす事ができる。装飾品も趣味のいい絵画や利用者の作品が飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳とフローリングの2種類の居室がある。理学療法士との相談で、状態に合わせた居室作りをしている。ベッドの高さにも気を配っている。家庭で使われていた家具を設置し、大切な物や趣味の物を持ち込み、お気に入りの装飾品を飾られたりと、その方らしい居室になっている。		